

赤潮発生状況について

西岡智哉・斎浦耕二・平野 匠

平成24年に徳島県沿岸域で発生した赤潮について、公式に記録することを目的とする。

方法

漁場環境調査等における観測や漁業者からの聞き取りを元に、赤潮の発生期間、発生海域、赤潮構成種、及び漁業被害についてまとめた。

結果及び考察

表1に平成24年の赤潮発生状況、図1に赤潮発生件数と被害件数の推移、図2に赤潮発生海域をそれぞれ示した。平成24年は前年より1件多い12件の発生がみられた。1月中旬から2月中旬にかけて、松茂町長原～阿南市中林町沿岸において珪藻の*Eucampia zodiacus*が高密度化し、ワカメやノリの色落ちが発生した。また、6月上旬から中旬には、*Myrionecta rubra*による局所的に海面の着色がみられた。

平成24年は夏季において*Chattonella*属等の有害種が高密度化することはなかった。これは、梅雨前線の活動に伴う降雨の影響により、水温、塩分等の環境の変化が激しかったことや、*Skeletonema*属や*Chaetoceros*属を中心とした珪藻が優占したことから、増殖の機会を得られなかったためと推察される。

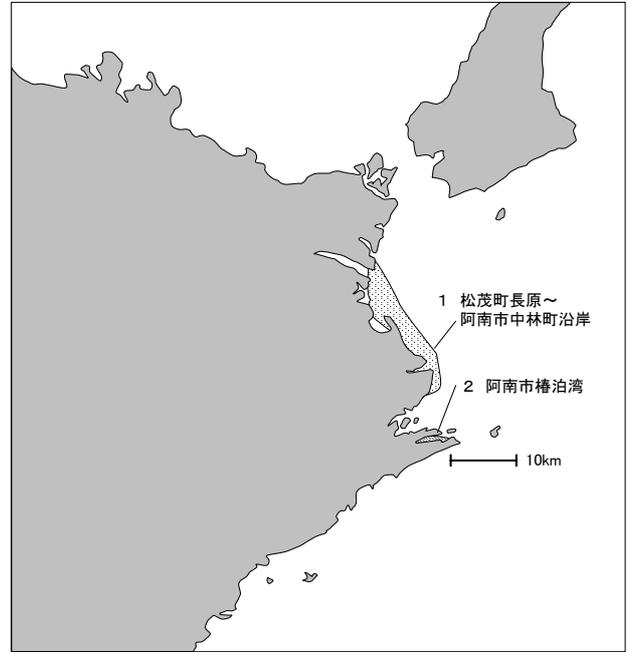


図2．赤潮発生海域。図中の番号は表1に示した赤潮の番号を示している。

表1．平成24年の赤潮発生状況

番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種	漁業被害	最高細胞数 (cells/mL)
1	1/18～2/15	29	松茂町長原～阿南市中林町沿岸	<i>Eucampia zodiacus</i>	藻類の色落ち	953
2	6/4～6/11	8	阿南市椿泊湾	<i>Myrionecta rubra</i>	なし	7,500

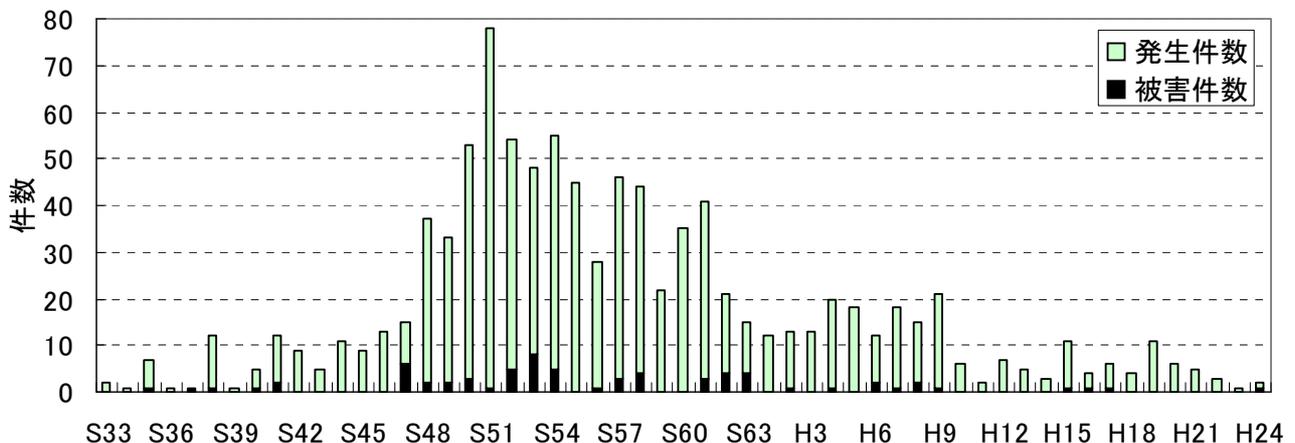


図1．赤潮の発生件数と被害件数の推移